豊里地区に関するヒアリング結果

日時：　平成 26 年 2 月 26 日(水)	対象者：　渡邊博氏、渡邊清氏
場所：　豊里会館	出席者：　淀川管内河川ﾚﾝｼﾞｬｰｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　辻川氏 地域協議会事務局：高橋、中村

１．聖徳太子と豊里の関わり

・豊里の地名は、聖徳太子の別名である豊聡耳皇子（とよさとみみのおうじ）に因むと言われている。

・聖徳太子が四天王寺を建立する土地の候補として、淀川が近く馬草の多いこの地を候補地と考え、長期間滞在したことがあったらしい。また、滞在中の聖徳太子をもてなすため、地元の人々が式三番叟（しきさんばそう、能楽を構成する芸能の一つ）を舞ったことがあったらしい。天王寺庄や三番村（ともに明治の淀川改修により水没）の地名はこれに因む。

２．乳牛の飼育について

・この辺りでは乳牛を飼っていた。河川敷ではヨシ、チバラ（当時の地元での呼び名、ヨシに似た草本類）などを刈り、自宅で飼育する牛の飼料とした。

・明治まで「乳牛牧（ちちうしまき・ちちゅうしまき）」の地名が残っていた。また、今の大隅西小学校は大正まで「乳牛牧尋常小学校」と称していた。

３．生活と淀川との関わり

・プールが整備されていない頃は子供が淀川で泳いでいた。付近はヨシ原だった。

・堤防にはカセグチ（現在の水防倉庫）があった。

・終戦後の食料難のときにヨシ原に芋の苗を植えるなどしたが、じめじめした土地で台風が来ると水に浸かるため、どちらかというと河川敷は使いづらかった。

・バクダン池は砲弾の落ちた跡である。同じ箇所に２つ落ちた池はヒョウタン型をしている。深いことと水質が悪いことから、あまり泳ぐことはなかった。

・バクダンで堤防が切れたためにジェーン台風で洪水となったが、上流の高槻で堤防が決壊したために逆にこの地では水が引いたということもあった。

・淀川で採れる小型の淡水魚を「じゃこ」と言っていた。じゃこ取りをし、大豆といっしょに煮て食べる「じゃこ豆」という郷土料理があった。いまは「じゃこ取り」はしていない。

4. 区画整理事業以前の豊里について

・昭和 35 年からの 35 万坪の区画整理事業が始まる前は、北淀高校や新大阪駅のあたりまで一面のレンコン畑だった。土地が低かったことから、洪水時には大桐のあたりから水が溜まっている様子が一望できた。

以上